

ロシア連邦における第7回（2007年） 統一国家試験の結果について

松 永 裕 二

On the Results of the 7th(2007) Unified
State Examination in Russia

Yuji Matsunaga

はじめに

ロシア連邦において、2001年から統一国家試験（Единый государственный экзамен）の試行的導入が開始されて6年が経過した。本稿の目的は、2007年の5月～7月にかけて実施された第7回統一国家試験の結果について分析することにある。まず、統一国家試験とはどのようなものであるかを明らかにする。次いで、ロシア連邦教育・科学省が現時点で公表している第7回統一国家試験の全国的な結果（統計資料）を紹介し、その内容の分析を試みる。第4回（2004年）の統一国家試験の結果に関しては時を待たずして詳細な統計資料が公表されたので、筆者は別稿^①でそれらの分析を行ったが、第7回統一国家試験の結果に関しては今のところ全体的な統計資料しか公表されていない。従って、結果の分析には自ずと限界があることをお断りしておきたい。全国的な結果の分析に加えて、ロシア連邦を代表する大都市の一つであるサンクト・ペテ

^① 拙著「統一国家試験（Единый государственный экзамен）によって英才児の選抜は可能か」、『ロシアにおける英才教育と学校の多様化・個性化に関する総合的調査研究 成果報告書』、平成14～16年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（1）（海外）（課題番号14401006）：研究代表者－都留文科大学教授・福田誠治）、所収、平成17（2005）年3月、122～147頁。

ルブルク市の第7回統一国家試験の結果についても分析を行う。最後に、統一国家試験の今後の課題と展望を述べて結語に代えることにしたい。

I 統一国家試験導入の目的

2001年からロシア連邦の5つの連邦構成主体^②（サハ共和国、マリ・エル共和国、チュワシ共和国、サマーラ州、ロストフ州）で試験的に導入が開始された統一国家試験は、中等教育修了資格を取得するための国家試験と大学入学試験の双方を兼ねるものである。これまで別々に課せられていたこれら二つの試験を一本化する試みなので、統一国家試験と呼ばれることになった。ロシア連邦において生徒は、普通教育学校の第9学年（我が国の中学3年に該当）及び最終学年である第11〔12〕学年（高校3年に該当）の終了時に国家試験を受けて修了資格を取得しなければならない。第11学年終了時の国家試験（以下、高校卒業試験）では、「ロシア語」、「数学」の必須受験科目に加えて3科目以上、計5科目以上を受験することとされている。統一国家試験は、その性格上、わが国の大学入試センター試験や米国のSATなどに類似している。

統一国家試験は、次のような狙いをもって導入されることとなった。①コンピュータの利用による高校卒業試験の評価の客観化、②統一国家試験の成績をそのまま大学入試で利用することによる大学入試の客観化と大学入試における不正（賄賂を使つての合格など）の防止、③高校卒業試験と大学入試の一本化による高校生（受験生）の学習負担軽減、④統一国家試験に向けての学校・生徒の受験意欲向上に伴う教育の全国的な質的向上、⑤地方出身者の高等教育機会の拡大、⑥統一国家試験と連動した ГИФО（ギフォ）と呼ばれる大学への国庫補助新システムの導入による高等教育費国庫負担の客観化・合理化ならびにこれに伴う高等教育の質的向上。^③

第2回以降の統一国家試験の導入実験においても、これらの狙いは基本的に

^② ロシア連邦は、地域と居住民族によって区分された共和国、地方、州、自治管区などによって構成されているが、これらは総称して連邦構成主体と呼ばれる。2001年当時はロシア全体で89の連邦構成主体があったが、2007年現在では85となっている。

^③ 拙著、前掲論文、122頁。

変わっていない。ただし、ГИФОに関しては、2002～2003年に3つの地域で実験的に行われたが、統一国家試験の実施方法と体制が未だ不十分という理由から「2004年以降はその実験対象地域を拡大しない」という決定が採択されている。^④

以下、統一国家試験の実施方法・試験問題・利用方法などについてその概要を示す。統一国家試験の実施時期は、毎年5月～6月（過年度卒業者は7月）に連邦構成主体（以下、地域）ごとに学校や大学の教室を利用して実施される。受験料は無料である。2007年の試験科目は、「ロシア語」、「数学」など計13科目。統一国家試験への地域の参加は、強制でなく各地域によるロシア連邦教育・科学省への自主的な参加申請が前提となっている。試験科目の選択も各地域に委ねられている。試験時間は、科目によって異なり3時間から4時間（外国語は142分）で、わが国の大学入試センター試験に比べればかなり長時間である。試験問題は、どの科目もA、B、Cの三タイプからなる。タイプAは4つの選択肢の中から正解を選ぶもので、タイプBは解答に相当する一つの簡単な言葉や数字を記入する形式、タイプCは用意された設問について論述式で解答する形式の問題である。タイプAとBの採点はコンピュータによって、タイプCは専門家（当該地域の教員）によって行われる。各科目100点満点である。採点結果は、ロシア連邦教育省のテストセンターに送られここで5段階の評定値に換算される。各学校は、この5段階評定値に基づいて中等教育修了証書に記載する成績を確定する。受験生各自には、統一国家試験の受験科目別成績証明書（100点満点）が交付される。大学を受験する場合、その大学・学部が統一国家試験に参加していれば入学委員会にこの証明書を提出しさえすればよい。その提出は、書留郵便でもよくまた複数の大学・学部への出願も可能である。入学委員会は、証明書記載の成績に基づいて出願者の合否、合格の場合は授業料の徴収・非徴収を判定し出願者に通知することになっている。^⑤

統一国家試験は、このように、ロシア連邦の学校教育と高等教育の双方に大きな変革をもたらすものである。事実、生徒（受験生）自身のみならずその指

^④ Минобразнауки: Должна существовать альтернатива ЕГЭ
(<http://www.rian.ru/society/education/20050615/40525148-print.html>, 2007/09/11)

^⑤ 拙著、前掲論文、123頁。

導に当たる学校教員、統一国家試験の成績に基づいて入学者を決定する大学教員、それに生徒（受験生）の保護者、統一国家試験対策をビジネスチャンスと考える教育産業（受験参考書の販売、模試の実施など）や IT 関連企業をステークホルダーとしながら、統一国家試験は、ロシア社会全体に様々な影響を及ぼしつつある。統一国家試験の結果に、その実施責任人であるロシア連邦教育・科学省もその実施主体である各地域も、自ずと敏感にならざるを得ない状況が生まれている。次章では、第 7 回（2007 年）統一国家試験の全国的な結果について分析しよう。

II 第 7 回（2007 年）統一国家試験の結果分析

ロシア連邦教育・科学省は、統一国家試験のための専用ウェブサイト (<http://ege.edu.ru/>) を開設して統一国家試験のための諸情報を提供している。本章で以下に掲げる表・図は、特に断りがない限りすべてこのウェブサイト内の統計資料 (<http://ege.iot.ru/content/view/78/1/>、最新更新日は 2007 年 9 月 7 日) に基づいている。まずは、第 7 回統一国家試験の実施地域・受験者数から始めることにしよう。

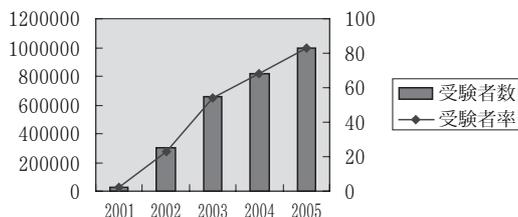
（1）実施地域・受験者数

第 7 回統一国家試験は、ロシア連邦を構成する 85 の連邦構成主体（共和国、地方、州など—以下「地域」）の内、82 の地域で実施された。〈表 1〉は、第 7 回統一国家試験の地域別・科目別受験者数一覧である。

統一国家試験の実施の判断は、どの科目を受験させるかも含めて各地域に委ねられているが、第 7 回目ではほぼ全ての地域（ロシア全土）において実施されたことになる。実施科目は「ロシア語」他計 13 科目で、これは 2004 年（第 4 回）以降同じである。受験者総数は 1,088,691 名で、これは最終学年生（我が国の高校 3 年生に該当）の 95%にあたる（厳密に言えば、受験生には過年度卒者が若干含まれているのでこの比率は実際よりも大きくなっている）。このように、最終学年生の受験者率によればロシア全土の最終学年生のほぼ全員が受験したことになるが、科目によって受験者率は大きく異なる。最多は、「ロ

シア語」の964,318名（最終学年生の84.2%）、ついで「数学」の659,459名（同57.6%）、最少は「フランス語」の480名（同0.04%）であった。「ロシア語」、「数学」の受験者率が高いのは、これらの科目が中等教育修了資格を取得する上で必須受験科目となっていることによる。なお、＜図1＞は、2001年（第1回）から第5回（2005年）までの最終学年生の受験状況を示したものである。受験者数・受験者率の急激な増加が窺える。

＜図1＞ 受験者数・受験者率（％）



出 所：Итоги проведения эксперимента по введению единого государственного экзамена в 2004 году и Задачи эксперимента на 2005 год. Формат: презентация PowerPoint
 (http://ege.iot.ru/component/option,com_docman/task,cat_view/gid,23/Itemid,22/, 2007.11.17) を元に作成。

（2）各科目の平均点と得点分布状況

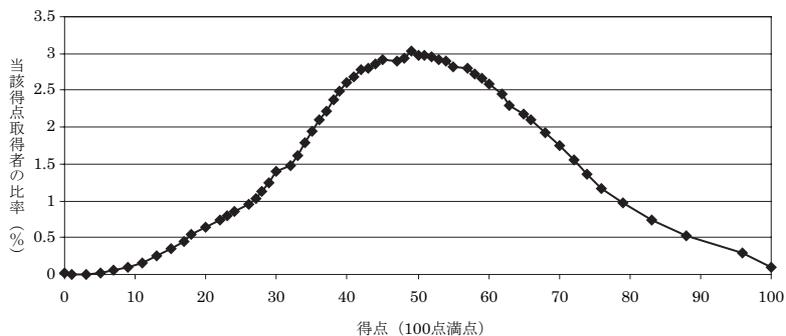
＜表2＞は、13科目の平均点と満点取得者率を示したものである。

＜表2＞ 各科目平均点・満点者数

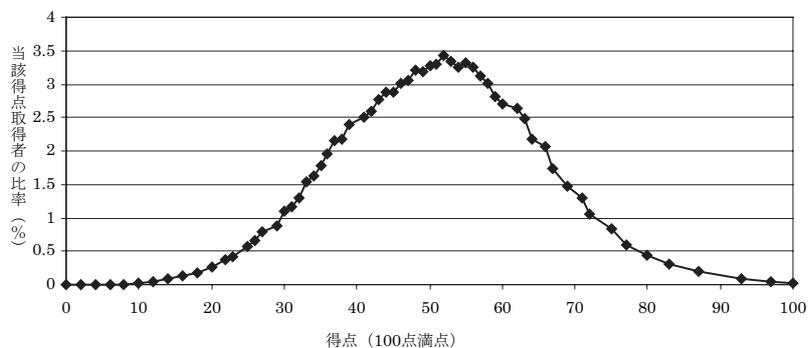
科目	平均点	満点者数	満点者比率	受験者数
ロシア語	48.74	969	0,10	964318
数学	47.48	100	0,02	659459
物理	46.63	31	0,03	93865
化学	45.49	74	0,18	41272
情報	45.14	12	0,28	4270
生物	46.34	39	0,04	99897
ロシア史	47.94	37	0,05	72893
地理	47.10	20	0,08	24890
英語	58.10	3	0,02	14864
ドイツ語	53.18	1	0,07	1361
フランス語	64.08	0	0,00	480
社会	49.86	20	0,02	123025
文学	50.26	12	0,09	13003
ロシア全体	48.17	1318	0,06	2113597

各科目の平均点（100点満点）でみる限り、「フランス語」、「英語」、「ドイツ語」は比較的易しく、「化学」、「情報」、「物理」、「生物」は難しかったようだが、「情報」の満点取得者率は0.28%と他の科目に比べて著しく高いので（13科目全体の平均は0.06%）、各科目の平均点からだけでは何ともいえないようである。以下に、13科目の各得点分布グラフを示す。

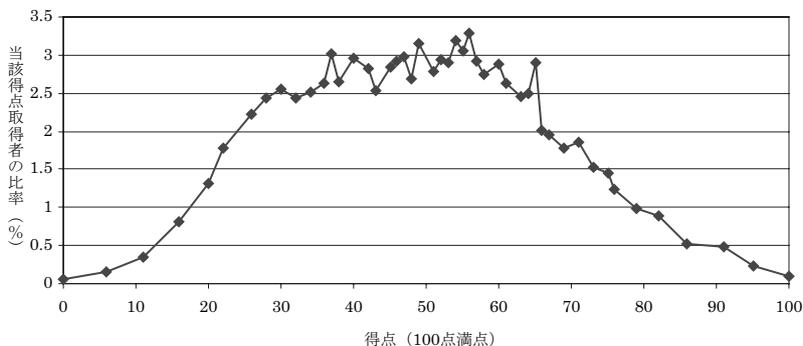
<図2> 「ロシア語」の得点分布



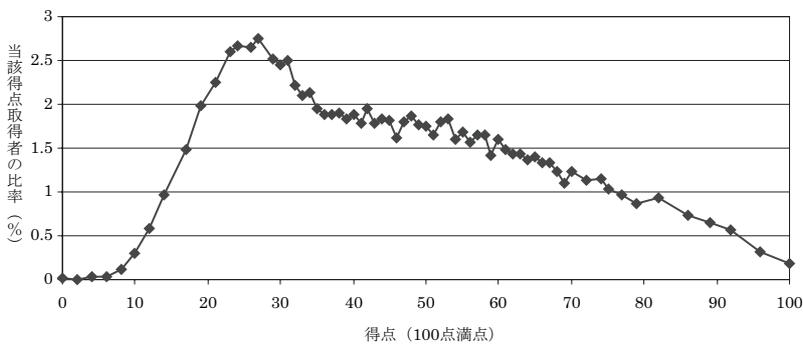
<図3> 「社会」の得点分布



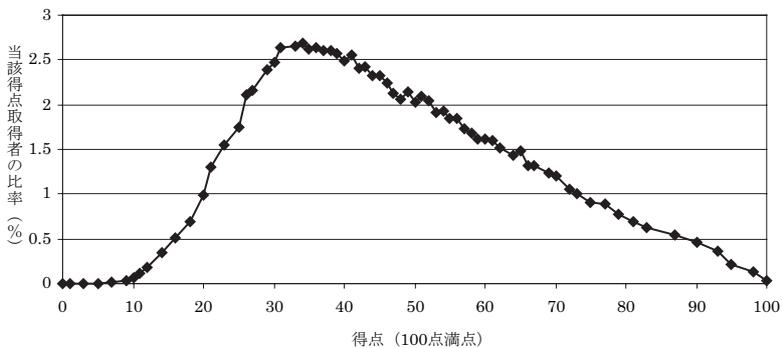
<図4> 「文学」の得点分布



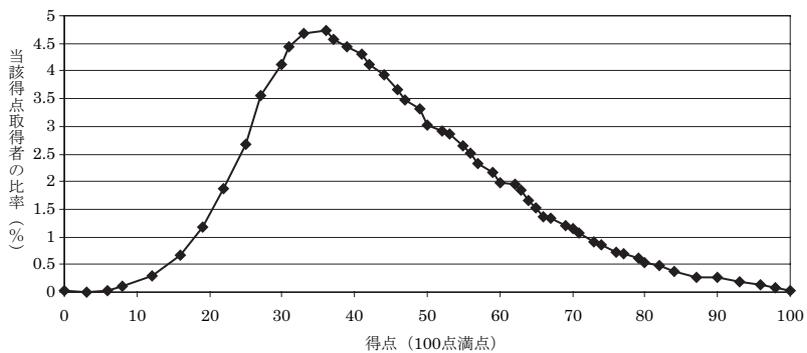
<図5> 「化学」の得点分布



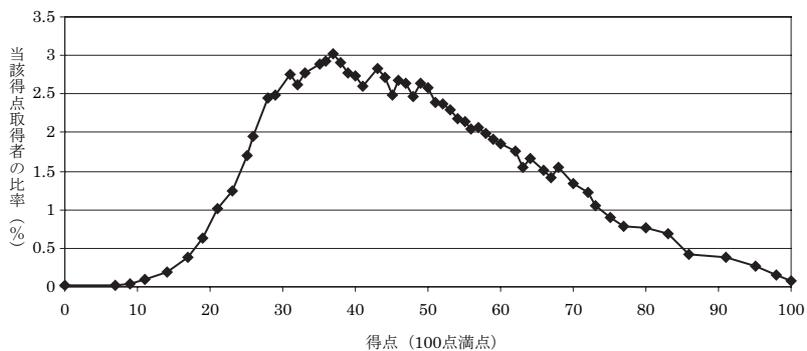
<図6> 「生物」の得点分布



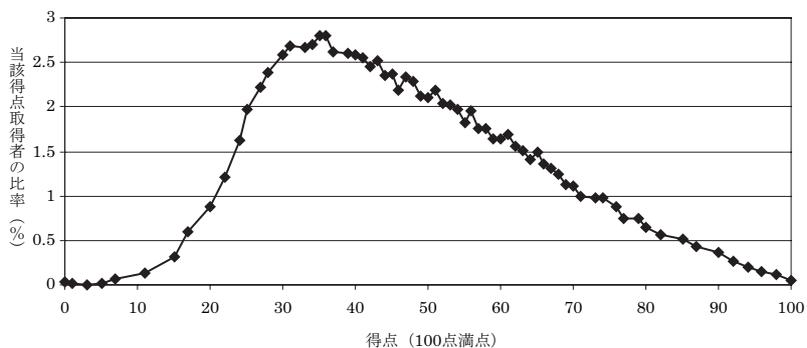
<図7> 「物理」の得点分布



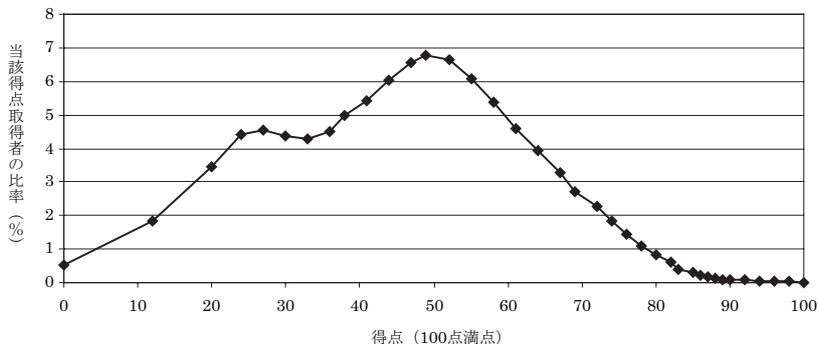
<図8> 「地理」の得点分布



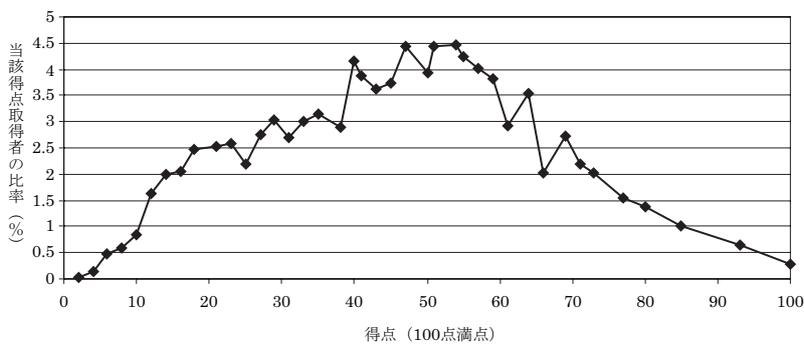
<図9> 「ロシア史」の得点分布



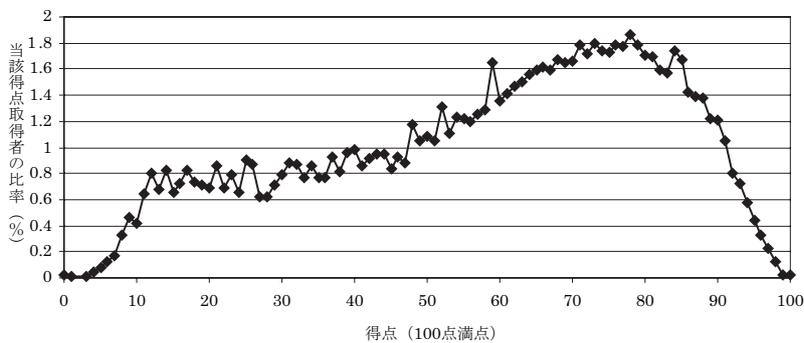
<図 10> 「数学」の得点分布



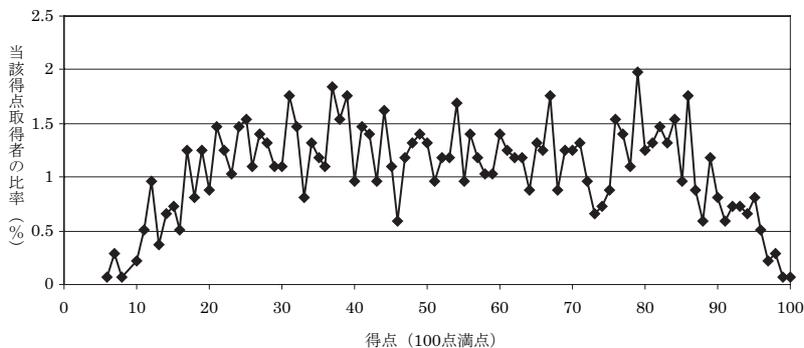
<図 11> 「情報」の得点分布



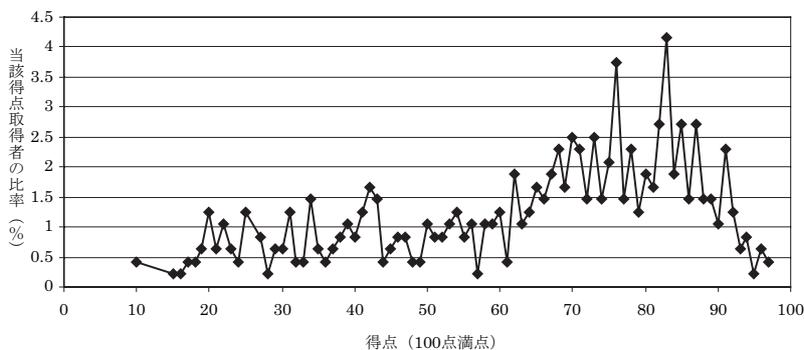
<図 12> 「英語」の得点分布



<図 13> 「ドイツ語」の得点分布



<図 14> 「フランス語」の得点分布



これら 13 科目の得点分布から次のことがいえよう。①「ロシア語」、「社会」および「文学」は得点分布が似通っている。「ロシア語」と「社会」は比較的正規分布に近い形となっている。②「生物」、「物理」、「地理」、「ロシア史」の得点分布も似通っているが、グラフの山は 30～40 点とかなり低くなっている。③「数学」には二つの山があり、他のグラフとは異なっている。「ドイツ語」にもそのような傾向がみられる。④「情報」は成績が良い者（満点者を含め）も相対的に多いが、成績の低い層（20 点台～30 点台）の比率も高い。これが平均点を引下げたようである。⑤「英語」の山は 70 点台、「フランス語」の山は 80 点台にあるので、両科目の平均点が相対的に高くなったのは納得できる。「フランス語」の平均点は 64 点と 13 科目中一番高かったが、その受験

者は460名と最少であった。受験者も少なく問題も易しかったことでこのように平均点が押し上げられた可能性が高い。

(3) Cタイプ論述式問題への取組み状況と解答状況

Cタイプの論述式問題は、単なる知識の量とか暗記力ではなくて論理力、応用力、創造力などを問う問題である。いわばPISA型学力とでもいうべきものを測る目的で作成された問題と考えてもよい。^⑥ 2003年のOECDによる生徒の学習到達度調査(PISA)によれば、ロシア連邦のPISA型学力状況は次のように芳しくなかった。この調査は、義務教育修了段階の15歳児を対象に、生徒が持っている知識や技能の再生能力ではなくそれらを活用し応用する諸能力(「読解力」、「数学的リテラシー」、「科学的リテラシー」、「問題解決能力」)を評価するために実施されたものである。「読解力」－442点(40カ国中32位、OECD平均は494点)、「数学的リテラシー」－468点(40カ国中29位、OECD平均は500点)、「科学的リテラシー」－489点(40カ国中29位、OECD平均は500点)、「問題解決能力」－479点(40カ国中29位、OECD平均は500点)。^⑦

第7回統一国家試験(Cタイプの論述式問題)によるPISA型学力の評価結果は、どうだったのであろうか。「ロシア語」と「数学」についてこれを見てみよう。〈表3〉は、「ロシア語」のCタイプ問題に手を付けなかった受験生の比率(%)を、〈表4〉は、「ロシア語」のCタイプ問題の得点が零点であった受験生の比率を示したものである。同様に〈表5〉は、「数学」のCタイプ問題に手を付けなかった受験生の比率を、〈表6〉は、「数学」のCタイプ問題の得点が零点であった受験生の比率を示したものである。これらの表で

^⑥ Основные итоги эксперимента по организации и проведению Единого государственного экзамена (<http://www.orenipk.ru/seminar/polkina.htm>, 2006/12/23) 参照。

^⑦ 「学力の国際比較(2000年、2003年)」(<http://www2.ttcn.ne.jp/~honkawa/3940.html>, 2007/11/23)。なお、この問題に関する詳細な分析は次を参照のこと。遠藤忠「ロシアの教育政策と国際的学力調査－[TIMSS, PISA]を通して」『ロシアにおける英才教育と学校の多様化・個性化に関する総合的調査研究 成果報告書』、平成14～16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1)(海外)(課題番号14401006):研究代表者-都留文科大教授・福田誠治)、所収、平成17(2005)年3月、94～121頁。

は、地域は比率が低い順に並べ替えてある。これらの比率が低い地域の受験生ほど、Cタイプ問題への取組み状況と解答状況は良いということになる。ただし、Cタイプ問題を全く解答しなくても5段階評価で3（合格）をとることもできるように各科目の問題は作成されているので、Cタイプ問題に全く手を付けなかった受験生の中には、やればできたかもしれないが「3」がとればよいので解答しなかったという受験生が含まれている可能性もある。

「ロシア語」に関しては、明らかな地域格差が窺える。サンクト・ペテルブルクやモスクワに代表されるロシアの政治・経済・文化の中心地域は、イングーシ共和国、ダゲスタン共和国、カラチャイ・チェルケス共和国、アドゥイゲ共和国、カバルダ・バルカル共和国などロシア南部の北カフカス諸共和国およびアジア中央部に位置するトゥヴァ共和国に比べ、Cタイプ問題への取組み状況・解答状況が良い。これらの地域は、チェチェン問題で代表されるような民族・宗教・言語等の複雑な問題を抱えた地域でもある。「数学」に関しては、Cタイプ問題の得点が零点であった受験者の比率は、平均（ロシア全体）で76.2%とかなり高かった。データは示していないが、「数学」の次にその比率が高かったのは「物理」の51.9%であった。「数学」においても、ダゲスタン共和国、トゥヴァ共和国の取組み状況・解答状況は大変悪いが、カラチャイ・チェルケス共和国はモスクワと遜色がなく大変良い状況であり、「ロシア語」のように北コーカサスの諸共和国がおしなべて悪いということではない。とはいえ、「数学」においても地域間で明らかに学力格差がある。加えて、「数学」のみならず「物理」に関してもPISA型学力（応用力等）の水準向上は、全国的な課題といえそうである。

以上、第7回統一国家試験の全国的な結果を概観した。次章では、モスクワに次ぐ大都市であり文化・芸術、政治・経済において重要な役割を果たしているサンクト・ペテルブルク市の第7回統一国家試験結果を分析することにしよう。

<表3>

	連邦構成主体	ロシア語
1	レニングラード州	0.48
2	モスクワ州	1.00
3	サンクト・ペテルブルク(連邦市)	1.48
4	サラトフ州	1.53
5	ペルゴゴド州	1.54
6	アガ・プリヤート自治管区	1.77
7	ブスコフ州	1.94
8	アムール州	2.08
9	ヤマロ・ネネツ自治管区	2.33
10	トヴェリ州	2.35
11	ウズチオラダ・フルヤート自治管区	2.36
12	ムルマンスク州	2.38
13	ウドムルト共和国	2.54
14	オレンブルク州	2.56
15	モスクワ(連邦市)	2.57
16	キーロフ州	2.60
17	リャザン州	2.63
18	タンボフ州	2.80
19	カリニア共和国	2.83
20	ハンティ・マンシ自治管区	3.33
21	トゥーラ州	3.36
22	チュリャピンスク州	3.41
23	ノヴゴロド州	3.48
24	ブリヤーンスク州	3.52
25	ヴォルガダ州	4.01
26	ヴォログダ州	4.30
27	ザマラ州	4.31
28	ハカス共和国	4.36
29	ネネツ自治管区	4.48
30	ヤロスラヴリ州	4.56
31	ケメロボ州	4.58
32	クラスノダール地方	4.65
33	ウラジミール州	4.68
34	アルハンゲリスク州	4.87
35	マリ・エル共和国	4.97
36	スモレンスク州	5.11
37	コストロマ州	5.16
38	クルガン州	5.23
39	カリニングラード州	5.56
40	オリョール州	5.69
41	チタ州	6.29
42	タタル共和国	6.42
43	ユダヤ自治共和国	6.55
44	カムチャツカ州	6.80
45	アルタイ地方	6.88
46	クラスノヤルク地方	6.92
47	クルスク州	6.96
48	スタヴロポリ地方	7.12
49	ロストフ州	7.23
50	サハリン州	7.29
51	コム共和国	7.60
52	イルクーツク州	7.67
53	アストラハン州	7.67
54	サハ(ヤクート)共和国	7.74
55	アルタイ共和国	7.79
56	ベルミ州	8.21
57	ブリヤート共和国	8.24
58	トムスク州	8.26
59	チュヴァシ共和国	8.82
60	チュメニ州	8.96
61	マダダン州	9.00
62	ベンザ州	9.48
63	チュクチ自治管区	9.34
64	リブナ州	9.38
65	ヴォロネジ州	9.90
66	カルムク共和国	10.49
67	カルーガ州	10.60
68	ハバロフスク地方	11.39
69	北オセチア共和国	13.16
70	モルドヴィア共和国	13.88
71	カバルダ・バルカル共和国	15.11
72	アドゥイゲ共和国	17.59
73	トヴァ共和国	18.41
74	カラチャイ・チェルケス共和国	19.11
75	ダゲスタン共和国	26.05
76	イングーシ共和国	52.34
77	バシキリア共和国	
78	ヴォルゴグラード州	
79	イヴァンヴォ州	
80	オムスク州	
81	スヴェルドロフスク州	
82	ウリヤンフスク州	
	ロシア全体	5.97

<表4>

	連邦構成主体	ロシア語
1	レニングラード州	0.77
2	モスクワ州	1.32
3	ブスコフ州	2.20
4	サンクト・ペテルブルク(連邦市)	2.29
5	ペルゴゴド州	2.53
6	サラトフ州	2.56
7	トヴェリ州	2.63
8	ヤマロ・ネネツ自治管区	2.73
9	ムルマンスク州	2.90
10	キーロフ州	3.01
11	ウドムルト共和国	3.14
12	リャザン州	3.42
13	アガ・プリヤート自治管区	3.45
14	オレンブルク州	3.73
15	モスクワ(連邦市)	3.77
16	カレリア共和国	3.83
17	ハンティ・マンシ自治管区	3.86
18	ノヴゴロド州	3.86
19	ウズチオラダ・フルヤート自治管区	3.88
20	チュリャピンスク州	3.92
21	アムール州	3.95
22	タンボフ州	4.07
23	ヴォロネジ州	4.39
24	ブリヤーンスク州	4.54
25	ネネツ自治管区	4.73
26	トゥーラ州	4.74
27	ヴォログダ州	4.79
28	ハカス共和国	5.33
29	ヤロスラヴリ州	5.35
30	アルハンゲリスク州	5.48
31	ザマラ州	5.44
32	ハカス共和国	5.55
33	マリ・エル共和国	5.82
34	スモレンスク州	5.85
35	コストロマ州	5.85
36	ケメロボ州	5.91
37	クラスノダール地方	5.97
38	クルガン州	6.39
39	カリニングラード州	6.81
40	チタ州	7.30
41	ロストフ州	7.74
42	クラスノヤルク地方	7.78
43	ユダヤ自治共和国	7.79
44	オリョール州	7.80
45	アルタイ共和国	8.02
46	タタル共和国	8.27
47	アルタイ地方	8.35
48	コム共和国	8.64
49	サハリン州	8.75
50	ベルミ州	9.17
51	カムチャツカ州	9.34
52	トムスク州	9.75
53	アストラハン州	9.76
54	ベンザ州	10.34
55	ブリヤート共和国	10.59
56	イルクーツク州	10.72
57	スモレンスク州	10.75
58	カルーガ州	10.86
59	チュクチ自治管区	10.89
60	チュメニ州	11.01
61	マダダン州	11.25
62	リベック州	11.67
63	ヴォロネジ州	12.00
64	アルタイ共和国	12.29
65	サハ(ヤクート)共和国	12.40
66	ハバロフスク地方	13.14
67	カルムク共和国	13.17
68	モルドヴィア共和国	17.06
69	スタヴロポリ地方	19.06
70	アドゥイゲ共和国	19.65
71	北オセチア共和国	19.65
72	カバルダ・バルカル共和国	20.47
73	カラチャイ・チェルケス共和国	25.57
74	トヴァ共和国	33.42
75	ダゲスタン共和国	42.99
76	イングーシ共和国	59.80
77	イヴァンヴォ州	
78	ヴォルゴグラード州	
79	ウリヤンフスク州	
80	オムスク州	
81	スヴェルドロフスク州	
82	バシキリア共和国	
	ロシア全体	8.16

<表5>

	連邦構成主体	数学
1	モスクワ州	10.69
2	モスクワ(連邦市)	17.32
3	バシキリア共和国	18.64
4	ヴォロネジ州	19.21
5	カラチャイ・チェルケス共和国	21.28
6	トヴァ共和国	29.36
7	ヴォシビルスク州	29.68
8	ネネツ自治管区	30.77
9	ウズチオラダ・フルヤート自治管区	31.45
10	リャザン州	31.92
11	オレンブルク州	32.41
12	カバルダ・バルカル共和国	33.52
13	ウリヤノフスク州	33.54
14	ベンザ州	34.49
15	カルムク共和国	34.88
16	ハカス共和国	35.04
17	マリ・エル共和国	35.62
18	サハ(ヤクート)共和国	35.62
19	トヴェリ州	35.95
20	ウラジミール州	37.24
21	タタル共和国	37.26
22	モルドヴィア共和国	37.54
23	スタヴロポリ地方	37.96
24	トムスク州	38.67
25	ケメロボ州	39.02
26	アルタイ共和国	40.04
27	ヴォログダ州	40.22
28	アガ・プリヤート自治管区	40.74
29	カムチャツカ州	41.47
30	ケメロボ州	41.48
31	ハンティ・マンシ自治管区	41.59
32	キーロフ州	41.87
33	ブスコフ州	42.25
34	アルハンゲリスク州	42.47
35	ノヴゴロド州	42.81
36	クルガン州	43.11
37	ブリヤーンスク州	43.19
38	ムルマンスク州	43.76
39	ロストフ州	44.11
40	ザマラ州	44.17
41	ヤロスラヴリ州	44.77
42	コストロマ州	44.80
43	チュリャピンスク州	45.24
44	ウドムルト共和国	45.46
45	アルタイ共和国	45.88
46	ペルゴゴド州	45.98
47	ベルミ州	47.56
48	カルーガ州	47.87
49	トヴァ共和国	48.47
50	タンボフ州	48.87
51	カレリア共和国	49.72
52	ヤマロ・ネネツ自治管区	50.97
53	コム共和国	51.29
54	ブリヤート共和国	51.33
55	アストラハン州	51.37
56	チュクチ自治管区	51.60
57	スモレンスク州	51.70
58	カリニングラード州	52.93
59	北オセチア共和国	55.37
60	ユダヤ自治共和国	55.44
61	チュメニ州	55.86
62	リベック州	56.22
63	クラスノダール地方	56.34
64	ハバロフスク地方	56.48
65	ハバロフスク地方	57.06
66	イヴァンヴォ州	57.80
67	クルスク州	58.69
68	アドゥイゲ共和国	58.74
69	オリョール州	59.53
70	チタ州	60.50
71	イングーシ共和国	61.03
72	オムスク州	63.58
73	イルクーツク州	63.60
74	ヴォルゴグラード州	63.62
75	マダダン州	65.23
76	サハリン州	66.88
77	ダゲスタン共和国	76.87
78	アムール州	
79	レニングラード州	
80	サラトフ州	
81	スヴェルドロフスク州	
82	サンクト・ペテルブルク(連邦市)	
	ロシア全体	48.59

<表6>

	連邦構成主体	数学
1	ヴォロネジ州	41.74
2	カラチャイ・チェルケス共和国	42.74
3	カルムク共和国	43.12
4	モスクワ(連邦市)	44.46
5	モルドヴィア共和国	45.36
6	トヴァ共和国	51.37
7	モスクワ州	51.37
8	バシキリア共和国	55.74
9	カバルダ・バルカル共和国	59.44
10	ベンザ州	60.84
11	サハ(ヤクート)共和国	63.79
12	ザマラ州	65.81
13	オレンブルク州	65.93
14	ロストフ州	66.03
15	ハンティ・マンシ自治管区	67.63
16	ヴォシビルスク州	67.68
17	ノヴゴロド州	67.72
18	チュヴァシ共和国	67.88
19	リャザン州	68.26
20	マリ・エル共和国	68.34
21	アガ・プリヤート自治管区	68.97
22	ウラジミール州	69.03
23	アルタイ地方	69.78
24	チュリャピンスク州	69.90
25	トヴァ共和国	70.50
26	ハカス共和国	70.53
27	ムルマンスク州	71.60
28	ウズチオラダ・フルヤート自治管区	71.70
29	ケメロボ州	72.48
30	ベルミ州	72.78
31	カルーガ州	72.93
32	トムスク州	73.15
33	ブスコフ州	73.84
34	イングーシ共和国	73.98
35	スタヴロポリ地方	74.05
36	ブリヤーンスク州	74.21
37	カレリア共和国	74.76
38	トヴェリ州	75.62
39	クルガン州	76.16
40	クラスノヤルク地方	76.82
41	カムチャツカ州	76.94
42	コストロマ州	77.00
43	スモレンスク州	77.67
44	ケメロボ州	77.88
45	タタル共和国	78.20
46	ブリヤート共和国	78.50
47	北オセチア共和国	78.77
48	コム共和国	79.68
49	カリニングラード州	79.87
50	マダダン州	80.04
51	チタ州	80.37
52	アルタイ共和国	80.55
53	ウドムルト共和国	80.73
54	タンボフ州	81.09
55	ヤマロ・ネネツ自治管区	82.30
56	クルスク州	82.37
57	サハリン州	82.66
58	ヴォログダ州	83.43
59	アドゥイゲ共和国	83.48
60	クラスノダール地方	83.61
61	ネネツ自治管区	83.71
62	ヴォロネジ州	83.81
63	ハバロフスク地方	84.64
64	アルハンゲリスク州	85.06
65	チュクチ自治管区	85.41
66	オリョール州	85.90
67	チュメニ州	86.35
68	ペルゴゴド州	86.53
69	ユダヤ自治共和国	86.62
70	イルクーツク州	87.38
71	トヴァ共和国	87.70
72	オムスク州	87.75
73	アストラハン州	89.58
74	イルクーツク州	89.81
75	ダゲスタン共和国	94.08
76	アムール州	
77	レニングラード州	
78	サラトフ州	
79	スヴェルドロフスク州	
80	サンクト・ペテルブルク(連邦市)	
	ロシア全体	76.21

Ⅲ サンクト・ペテルブルク市の 2007 年統一国家試験の結果について

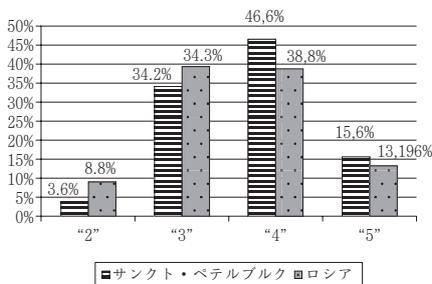
サンクト・ペテルブルク市は、第 4 回（2004 年）から統一国家試験に参加した。同市は、モスクワと同じくそれまで統一国家試験への参加を渋っていた。第 4 回から参加するようになった理由は、次のように説明された。①これまでも統一国家試験の受験者が著しく増加しているので、第 4 回には参加しないとこれに参加している他の地域からの大学受験生をサンクト・ペテルブルクの大学は取り逃がしてしまう、②公式の情報によれば 2004 年が統一国家試験の実験最後の年である。来年にでもこれが義務化されるというのであれば、そのために高校も大学も備えなければならない。^⑧

第 4 回統一国家試験の実施科目はロシア語のみであったが、第 7 回統一国家試験では必須の「ロシア語」に加えて「英語」、「生物」、「情報」、「ロシア史」も選択で受験できるようになった。「英語」、「生物」、「情報」、「ロシア史」を選択した生徒の数（受験者率）は、それぞれ 2755（6.41%）、3061（7.12）、1178（2.74）、2731（6.35）で、これら選択科目の受験率はかなり低かった。

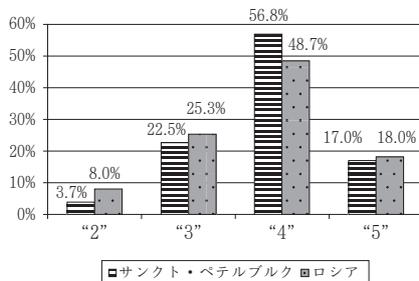
第 7 回統一国家試験に関しては、現時点では 37 の地域がインターネット上で情報を提供している。以下、サンクト・ペテルブルク市の第 7 回統一国家試験の結果をロシア連邦全体との比較で考察するが、その情報は、同市の統一国家試験専用ウェブサイト（<http://www.ege.spb.ru/>）による。図 15～18 は、5 段階評価による 4 科目の試験結果を、それぞれサンクト・ペテルブルク市（左）とロシア連邦（右）について図示したものである。なお、「ロシア史」のデータは、「生物」と全く同じで利用できない。恐らくデータを貼り間違えたのであろう。

^⑧ 拙著、前掲論文、124 頁。

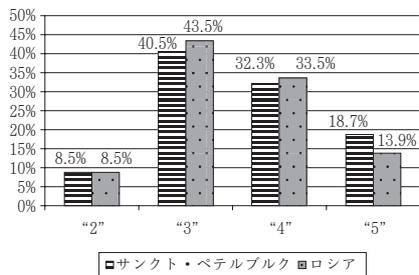
<図 15> 「ロシア語」



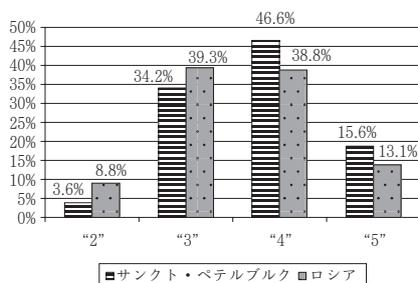
<図 16> 「英語」



<図 17> 「生物」



< 図 18 > 「情報」



これらの図から、①「ロシア語」と「情報」では、評定4、5のそれぞれにおいてその比率はサンクト・ペテルブルク市の方が全国平均よりも高い、②「英語」、「生物」でも、評定4と5を合わせた比率は、サンクト・ペテルブルク市が全国平均を上回っている。なお、「ロシア語」は、過去3回の統一国家試験においても一貫してサンクト・ペテルブルク市の方が全国平均よりも成績（5段階評定）は良かったし、「英語」、「生物」の第6回（2006年）統一国家試験の成績も、全国平均よりはるかに良好であった。

また、タイプCの論述式問題に手を付けなかったサンクト・ペテルブルク市の受験生の比率は、「ロシア語」（1.48%）、「英語」（0.69%）、「生物」（4.44%）、「情報」（8.66%）で、これらの比率はいずれも全国平均をかなり下回っていた（全国平均は、順に5.97%、5.06%、7.92%、17.17%）。なお、「ロシア史」も同様で5.27%に対して11.33%であった。

以上から、サンクト・ペテルブルク市の受験者の統一国家試験成績は、全国平均よりも良好であることが指摘できよう。ただし、選択受験科目の受験者率は、既に指摘したように6～7%と相当に低かった。これらの科目の受験者率がもっと上がれば、全国平均との差はもっと小さくなるものと思われる。

なお、モスクワ市に関しては、「ロシア語」の結果について次のように報道されている。^⑨ 評定5－受験生（65,000名）の約20%、評定4－同44%、評定3－同30～35%、評定2－同5%。150名が満点（100点）。モスクワ市教育

^⑨ Столичные отличники (<http://www.expert.ru/news/2007/06/09/ege/print>, 2007/09/18)

局長のリュボーフィ・ケジーナは、「ロシア語」満点者は1万人に一人と推定していたので、この結果は信じられないほど良いと大満足の様子である。「ロシア語」満点者の対受験者率の全国平均値は、〈表2〉が示すように0.1%である。モスクワのこの値は0.23%であり確かに最上位層に位置するが、マリ・エール共和国（0.53%）、コストロマ州（0.28%）、チュヴァシ共和国（0.25%）には劣るという興味深い現象も観察される（括弧内の比率は関連の公表データに基づいて算出）。とはいえ、モスクワ市は、サンクト・ペテルブルク市と並んで統一国家試験の結果が総じて良好であることは想像に難くない。

結びに代えて

第7回（2007年）統一国家試験の結果分析からは、次のことが指摘できる。①統一国家試験は2001年から実験的に試行されたが、第7回統一国家試験によって実質的にロシア全土の殆どの最終学年生が受験する体制となった。②13の試験科目の平均得点は、概して「ロシア語」以外の外国語科目では高く、自然科学系科目では低かった。③試験科目の得点分布は科目によってかなり異なっていた。④Cタイプの論述式問題（「ロシア語」、「数学」）への取組み状況・解答状況には、地域間で格差がみられた。⑤サンクト・ペテルブルク市およびモスクワ市は、他の地域に比べて「ロシア語」等の成績が良好であった。

筆者は既に、第4回（2005年）の統一国家試験の結果分析に基づいて、ロシア連邦においては学校タイプ間、設置者別学校間、男女間、生徒の居住地（都鄙）間で生徒の学力格差があることを明らかにした^⑩が、今回の分析によっても地域間（連邦構成主体間）の学力格差が確認されたことになる。その他の面での学力格差も依然として存在していると思われるのだが、公表された統計資料に限界があり現時点では確かなことはいえない。ともあれ、統一国家試験の実施によって明らかになった諸学力格差の是正に、ロシア政府、教育・科学省は今後どのように取り組んでいくのであろうか。是正策の真価が問われ

^⑩ 拙著、前掲論文、123～127頁を参照のこと。

ているといえよう。

統一国家試験は、2009年から全ての最終学年生に義務として課されることになっている。しかし、統一国家試験の実施を巡っては深刻な事件も生起している。例えば今回発生した事件は、「ロシア語」の試験開始前にその問題と解答が10時間にわたってインターネット上に公開されるという「試験問題漏洩事件」であった。何らかの方法でたまたま問題を事前に入手したレニングラード州の学校の一生徒が自分で問題を解き、誰もがそれをみることができるようネットに掲載するという前代未聞の事件が発覚したのである。当局は、レニングラード州の「ロシア語」受験生の成績分布を精査したところ、ロシア全体の平均と差はなかったので「ロシア語」の試験結果は無効にしないと結論付けた。^⑪ この結論がたとえ正当なものであったとしても、この事件によって統一国家試験の眼目である「客観性」や「信頼性」が大きく揺らいだのも事実であろう。

このような事件の発生は今後「技術的に」完全に防止できうるとしても、2009年からの統一国家試験の完全実施・義務化には反対と表明する有力者もいる。ロシア科学アカデミー総裁のユーリー・オシーポフ、モスクワ大学総長のB.A.サドーブニチィ、ロシア連邦議会下院議長のセルゲイ・ミロノフらである。彼らは、共通して、「統一国家試験は、大学入学志願者の学力水準を測定するための有効な手段とはならない。統一国家試験は大学入試に代替できない。」と主張している。^⑫

他方、一般市民の統一国家試験に対する評価は、この2、3年で好転しつつあるようだ。Фонд "Общественное мнение"（「世論」基金）による継続的な全国調査によれば、統一国家試験の導入に肯定的な市民の比率は、2003

^⑪ В России не будут аннулированы результаты ЕГЭ по русскому языку(<http://www.rian.ru/society/20070606/66777360-print.html>, 2007/09/08)

^⑫ オシーポフに関しては、Президент РАН скептически относится к оценке уровня образования по ЕГЭ (<http://www.rian.ru/society/education/20070203/60169257-print.html>, 2007/09/09)、

サドーブニチィに関しては拙著前掲論文、131～132頁・137～138頁、ミロノフに関しては、Спикер Совета Федерации считает ЕГЭ системной ошибкой (<http://www.rian.ru/society/education/20070202/60106569-print.html>, 2007/09/09)、Введение ЕГЭ приведет к деградации школьного образования – Миронов (<http://www.rian.ru/society/education/20070529/66282557-print.html>, 2007/09/08)を参照のこと。

年から2005年にかけては34.8%から28.9%へと減少したものの2007年には36.8%と好転し、その反対者の比率は同時期に29.0%→38.2%→33.0%へと変化した（「学校で統一国家試験が実施されていることを知っている」と回答した者が母集団）。^⑬ これは、「市民（生徒の保護者）は、統一国家試験について正しい情報を受け取っていなかった。統一国家試験を正しく理解すれば反対はしなくなるはずだ。」^⑭ というロシア連邦教育・科学省関係者の見解を裏付けるような結果といえるのかもしれない。しかし、そうはいつでも、2007年現在で統一国家試験の導入に賛成の者は過半数を超えているわけではない。加えて、20%の者は、「統一国家試験が実施されていることを初めて聞いた」と回答しているのである。2009年度からの完全実施に向けて、ロシア連邦政府、教育・科学省は、オシーポフらの反対者をどの程度説得できるのか、また世論の支持をどこまで得ることができるのか、その動向を見守りたいと思う。

西南学院大学人間科学部児童教育学科

^⑬ Единый госэкзамен – эксперимент продолжается (http://bd.fom.ru/report/cat/home_family/child_teenagers/secondary_education/examen/dd052223, 2007/11/21)、Единый госэкзамен: достоинства и недостатки (http://bd.fom.ru/report/cat/home_family/child_teenagers/secondary_education/examen/d072123, 2007/11/21)

^⑭ М. В. ニキーチン（ロシア連邦教育・科学省連邦教育発展研究所・所長）への筆者の質問（統一国家試験に反対する市民（保護者）が多いと聞くがこのことをどう思うか）に対する回答（2007年10月7日に青山学院大学で開催された「キャリア教育（職業指導・職業教育）に関する日本－ロシア国際シンポジウム」にて）